

「ふしぎな図書館」

対象学年／中学生以上

みなさんは普段、図書館に足を運びますか？

この作品は、青年が市立図書館に本を借りてきたところから始まります。本を探していると、その図書館で働く一人の老人に出会います。読みたかった本を持ってきて貰うのですが、貸し出しが禁止されていたのでその場で読まなければなりません。そして、老人に強引に地下の奥深くにある「閲覧室」に案内され、なんとそこに監禁されてしまいます。果たして、青年は図書館から脱出することが出来るのでしょうか。

著者の村上春樹さんは、世界的にも有名な作家の一人で、この短編小説にも思わずその世界に引き込まれてしまうような表現が散りばめられています。村上先生の本を読んでみたいけど、これから読めばいいのかわからないという人は一度この本を手にとってみてはいかがでしょうか。きつと村上ワールドに惹き込まれるに違いありません。(井口)



村上春樹 著
講談社文庫

コクゴのチカラ

Vol. 45

松桜塾 662-0036 西宮市大井手町 3-11 夙川ビル 2F
TEL 0798-74-2801 FAX 0798-74-8686
info@glt-shouou.com http://www.glt-shouou.com/ 2022年11月25日発行(第45号)

冬期講習のご案内

松桜塾では冬期講習を実施いたします。普段は忙しくて通塾できない方、一度松桜塾の授業を試してみたい方はぜひこの機会をご利用ください。楽しく考えられる授業で良い一年の締めくくりと、飛躍の一年のスタートを切りましょう。

詳細・お申込はホームページをご覧ください。

- ◆実施期間 12月19日(月)～1月6日(金) ※土日祝・年末年始をのぞく
- 低学年ベーシックコース 60分×3回
- 高学年以上スタンダードコース 90分×3回

レギュラー生へのお知らせ

月謝引き落とし

- 12月度 11月28日(月)
- 1月度 12月27日(火)
- 2月度 1月27日(金)

祝日による休塾日

- 1月9日(月)成人の日
- 2月11日(土)建国記念の日
- 2月23日(木)天皇誕生日

*月木土の通塾生は授業を振り替えてください。

年末年始による休塾期間

12月29日(木)～1月4日(水)

冬期講習期間

12月19日(月)～1月6日(金)

*冬期講習中も通塾授業は行います。

*教室内は感染防止対策のため窓を開けて換気を行っております。来室の際は温かい服装でお越しください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。ご意見・ご感想をぜひお聞かせください。また、本紙の配信がご不要の場合、その旨下記のRコードよりご一報ください。ますようお願いいたします。



「熟」

を効果的・効率的に利用するには

「二月の勝者」というドラマ化もされたマンガを「存在」でしょうか。主人公の塾講師は第一話で自分の教え子たちに「君達が合格できたのは父親の『経済力』、そして、母親の『狂気』と言います。これが話題となり、新聞や雑誌で中学受験における塾通いについて、経済的、物理的、精神的負担について特集記事が組まれたりするようになってきました。この現状とその理由についてはここではおいておくことにし、それでもこれらの負担を越えて塾での学びを意義あるものにするにはどうすればよいか、先日の「親の会」でお話したものの一部を取り上げて、考えてみたいと思います。

マネジメントの発明で有名なP・ドラッカーは、成果を出すために「集中と選択」を提唱します。不全な何かを機能させるためには、機能しないものを見つけ取り除く必要があります。これはご存知のことでも言えます。実は、進学塾や個別塾などでは、多様化してきた入試に対応するために様々なオプションが追加されています。また、家庭での負担を減らしつつ、きめ細やかな指導を求められることから、選択する授業の形態も増えました。大学受験の予備校も同様です。かつてと変わらない画一的話め込み式の塾もありますが、特定の大学の学部や推薦入試などに特化した塾も現れました。面接やディベート、クリエーティブティを伸ばす、「夢を持つ」など、個性や能力を伸ばすことに専門化された塾もあります。(かか言う当塾も、思考力そのものを鍛える、論理中心のかかり特殊な国語塾ですね。ちなみにバイキング料理のようにとりどり、これこれもこれも魅力的ではあります。しかし、取りすぎると食入るでございすいすいになり食事を兼ねませぬ

んし、消化不良を起こします。流されるのではなく、自分の目的を持って、主体的に選択利用していくことが必要です。もし、塾の授業や宿題の量に悩まされている場合、今何が必要か(基礎学力か応用力か、受験対策か、な)を検討し、意識的に取捨選択しましょう。その時、重要度が高いことほど緊急性がないために切り捨てがちなので、ご注意を。基礎は学ばべき時に学ばないと、後々身につけにくくなりますから。

また、教育は消費ではなく、生徒自身による能動的体験です。与えられるのは機会であり、商品やサービスではありません。ところが、サービスを求めるお客様さんモードに入ってしまうと、関心は自分の「得るもの」になり、外への期待と要求だけが高まり続けます。そうすると、内に向かいが、自分自身の改善意欲が減って学習者自身の成長が見込めなくなります。

「勉強」は字の通り、「強いて勉める努力」のことを表します。しかし、学習者学習習慣「ことば」学習者習慣にたつて辛いことはありません。自分の意思で動き、成長し、自己実現していくことは、幸福感につながります。学びたいから学ぶという姿勢を整えておくことが、塾学習に最も重要なことかもしれません。(松末)

「熟」を効果的・効率的に利用するには

- 一画 論理性と読解力をどのように育むか
- 二画 松桜塾からのお問い合わせ
- 三画 時間割変更のお知らせ
- 四画 ライブラリ紹介 45

冬期講習のご案内
レギュラー生へのお知らせ

論

理性と読解力をどのように育むか

【読書好きの環境】

本がいくらあっても足りないわが塾では、在塾生・卒業生の方から読み終わった本の寄付を受けることがあります。読書家のある女の子からいただいた本の中に、十冊以上のクリスマス関連のお話がありました。クリスマスプレゼントは、常に絵本・本だったのだそうです。そういうのは、彼女のお母様から、読んでよかった本、読ませたい本は購入してやりけなくリ、ブックなど目につくところに置いておくのだという話を聞いたことがあります。本好きは環境に作り上げられたのだなと感心しました。自然と本を好きになることもあるでしょうが、そうはならない時、どうやって読んでもらうか、これは本場に難しい問題です。

「本を読まない」というのは、子どもだけの悩みではありません。実は、小学生の時にはよく本を読んでいたが、中高生になると読まなくなったり、大人も読んだ方がいいのは分かっているがなかなか手が伸びなかったりします。おそらく、娯楽から教養へ、人間や社会というものの考察へ、生きる糧へ、と進化させることで、難しさを面倒くささが立ちあがります、そうしたものをテーマとする文章から遠ざかるのでしょう。



【議論へとたどる力・論理力】

哲学を取り扱うことで、論理的思考が得意になるという利点もあります。近年、何事においても結論を急ぎ、自分で考えず、ポイントだけを教えてもらおうとするきらいがあります。しかし、哲学の授業では、気付いた真理について、根拠を考え、自分で具体的な論述を組み立てます。すると、ひとつの結論に至るまでをたどっていく力が鍛えられます。これも、読書する時の理解力を上げる要素になります。実は、理解する以上に難しいのが、「この論理構築力で、この力の原点には教室で行っている「コボちゃん」をはじめとするマンガ作文があります。小学生の時から接続詞や時系列、因果関係に気を付けて書く練習をしておくことは、すべて読解力の源泉となります。

【今まさに必要とされる読書力】

小論文は、総合選抜(推薦・AO)入試が一般入試並みに重要になったからだけでなく、一般入試にも課されることが多くなりました。また、高校入試や中学入試作文で課されることもあります。実は、「書き方」つまり論文の形式・構成を覚えることは、それほど難しくありません。しかし、何を書くかを思い浮かなくては、全く筆が進みません。書く内容を生み出せるかは、多くの読書をしてきたかどうにかかっています。哲学的思考がこれほど頭を鍛えても、読書で自分自身の世界を広げていないと役立たせられません。「この話題について、あれもこれも関連付けて自分の知識を思い出せること」で、成果を出せるのです。

【読書は哲学から】

では、読書はなぜ難しいのか。面白くない、難しく分らない、内容が頭に入らない、内容を覚えていられない、などなど、いへる理由があるでしょう。幼い頃は、環境で読書の習慣を作れますが、高度なものを読んでも楽しく感じられる、なるほどと感銘を受けるためには、やはり読書技術が必要です。

その一つが、抽象的なことを理解する力です。これを鍛える手法として、松桜塾では中学生くらいから哲学を取り入れています。「哲学」と言っても学校の勉強のように、哲学者の名前を覚えたり、定義や説を覚えたりするわけではありません。「子どもたちの哲学対話」(永井均 著 講談社文庫)を使った、本質的なものをつかみ取る哲学的思考の練習です。哲学で取り扱う抽象概念は、「善や」「存在など」、聞いたことはあってもじつくり考えたことのないものばかり。十分な経験がなかったり、その考え方に慣れていなかったりすると、とても難しいものです。とはいえ、哲学は人間についての学びですから、自分自身と関連しないものはありません。生きてってなんだろう、幸せってなんだろう、なんで学校に行くんだろう、そんな身近な問いを通して、文章と講師と対話しながら、これまで当たり前としていた前提、根本的な価値観を問い直します。

そして、新たな視点や価値観を見出した上で、それについて説明できる説得力のある具体的な例を考え、論述します。そうした作業をすると、抽象的な思考に慣れ、新しく見聞きする概念も理解しやすくなります。ある思想家が「困難な現実を解決する創造性は、毎月一冊の小説と一編の評論で作れる」と言っています。今ここにある問題を俯瞰してみる力、新しい問題に対して解を創り出していく力、確かに読書体験から生まれます。ただし、そこには技術と修練が必要です。読書をただの娯楽とせず、主体的に取り組むことが、大人の私たちにとても、これからの変動激しい答えのない時代の備えになります。そして、子どもたちにこの読み方を教えることは、これまで以上に変動激しくなる時代を生き抜くための、最大のプレゼントとなることまちがいないでしょう。(松末)

松桜塾からのお願い

松桜塾では、普段の授業に合わせお家で読書の推奨しております。点でしかなかった言葉や知識も、読書によって新しく結び付けられ、自分の体系だったものとして位置づけられます。そうすると、他の文章を読んだときにも内容の理解がしやすくなります。そういった体験を増やしていただけるよう、書籍の購入・修繕を進め図書環境の整備を行っております。もしお家に読み終わった松桜塾の本がありましたら、教室までお持ちください。ご協力、よろしくお願いたします。



背表紙に「松桜塾シール」を貼っております

2月27日(月)より変更

平日	1コマ目	2コマ目	3コマ目
B	16:00~17:00	17:15~18:15	
S	15:30~17:00	17:15~18:45	19:00~20:30

土曜日	0コマ目	1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目	5コマ目
B	10:00~11:00	11:10~12:10	14:15~15:15	16:00~17:00		
S		11:10~12:40	13:45~15:15	15:30~17:00	17:15~18:45	19:00~20:30

B=ベーシックコース(60分) S=スタンダードコース(90分)

授業時間変更のお知らせ

松桜塾では、来年度より授業開始時間を変更いたします。すでに塾生の方にはご案内を差し上げておりますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。お間違いないよう、ご注意ください。

【読書を主体的体験にするために】

読書はストーリーや言い回しを楽しむだけではありません。自分に関わりのなかった世界を「読む」という形で疑似体験して感動したり、書かれた思想を通して自分自身や社会を深く理解していったりできます。評論家の加藤周一は「文学は人生または社会の目的を定義する」と言います。良書を読むことで、これらがどうあるべきか、社会はどうあるべきか、考えるヒントを得られるのです。しかし、これができるためにはその内容を「抽象的に理解する力」と、自分の身の回りのことに置き換える「具体化する力」が必要になります。多読をしているうちに、自然とこうしたことができるようになる人もいます。哲学では、その部分を意識的に鍛え、効率的に身につけていく必要があります。



ります。つまり、哲学は上手に考えるための視点の獲得につながるのです。すると、何事においても、常に本質的なものを意識的にとらえようとするようになる。「なんだと」「これは何でこうなのかな」となるのか、それをもとに考え方は広がっていきます。自分の知っている知識や経験、体験、既に学んだ概念などと繋げて理解していくという、主体的な読みに変えていくのです。